

## アドバイザーからのコメント

本懇話会アドバイザーの渡辺様から、次のとおりコメントがありましたので、審議の参考としていただきますようお願いいたします。

### ■資料 1 「令和 3 年度千歳市病院事業会計決算について」

前年度と比べて増収増益となり、黒字決算となりました。これは国から新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金などを受けたことが大きな要因です。千歳市民を守るために、昼夜問わずコロナ対応を引き受けて頂いた職員の皆様に心より感謝申し上げます。

コロナと共存するニューノーマルな時代に徐々に変わりつつある中で、患者も少しずつ戻ってきました。病床利用率（入院患者数）及び外来患者数は、世界中が混乱した前年度に比べて大きく増加しています。これは他の病院でも同様の傾向が見られます。

また、入院単価、外来単価ともに過去最高値を達成しており、急性期病院として適切な治療を提供した結果によるものと思料いたします。

令和 4 年度において、引き続きコロナ対応がある中で、エネルギー問題や医師の労働時間規制などが経営に与える影響も大きいと懸念されますが、引き続き地域の基幹病院としての役割を果たして頂けることを期待しております。

### ■資料 2 「公立病院経営強化ガイドライン（令和 4 年 3 月総務省策定）の概要について」及び 資料 3 「市立千歳市民病院経営強化プランについて」

今回の経営強化プランにおいては、千歳市民病院だけではなく、病院事業設置団体（千歳市）、都道府県（北海道）とともに経営強化を果たしていくことが求められています。

すなわち、従来の縦割り行政では実現できなかった機能分化と連携強化、経営形態の見直し、医師の招聘と働き方改革等について、千歳市及び北海道も積極的に関わること（総務省への具体的な状況報告）が求められている背景があることをご理解ください。

まずは千歳市民病院として、そのユニークな状況に適した地域でのあり方、そのための施策を再度ご検討いただき、そのうえで千歳市及び北海道との協議を通じて、持続可能な地域医療を引き続き提供して頂けるようなプランの検討・作成をお願いいたします。

市立千歳市民病院経営懇話会 アドバイザー 渡辺 典之（公認会計士）